学校だより　YAMADA　　新潟市立山田小学校　　令和６年　９月１３日
児童数400名
TEL.025-377-2114

や　ま　だ

Email: e717yamada-yakifuna@city-niigata.ed.jp　http://www.yamada-es.city-niigata.ed.jp/

大人の背中を見て育つ

教頭　長谷川　嘉彦

先日、スーパーの駐車場で、ある親子の会話が聞こえてきました。「入口の近くが空いているのに、どうして遠くにとめるの？」と子どもが母親に尋ねていました。するとその母親は「買い物に来る人の中にはいろいろな人がいるの。おじいちゃんやおばあちゃん、体の不自由な人、赤ちゃんを抱っこしている人たちが買い物に来て車をとめるとき、近くが空いていなかったら困るでしょ。私と〇〇は少し遠くても歩けるでしょ」と子どもに答えていました。親として行動を示し、その行動の理由を説明し、意味付けることで子育てをしていこうとしているのだと感じました。少しでも入口の近くに車をとめようとしていた自分の未熟さを恥ずかしく思いました。

以前、体育館で子どもたちがダンス練習をしているとき、後ろの方で踊っている高学年の子どもがいたので「前が空いているよ。前の方がよく見えるよ」と声を掛けたら「低学年が後から来るから。俺らが前で踊っていたら、低学年は見えないから」という言葉が返ってきたのを思い出します。その子どもは、普段から身近でそういう大人の行動を目にしているのでしょう。そして、その行動の意味を教えられているのでしょう。だから、そのような行動に表れたのだと思います。

「雨ニモマケズ」で有名な宮沢賢治は晩年、農民のために病をおして田畑の研究に没頭しました。それを見た母は「どうして賢治は自分のことより、困った人のために尽くすのかねえ」とつぶやいたそうです。隣に居た宮沢賢治の妹は「何を言ってるの。兄さんはお母さんと同じことをやっているんじゃないの」と言ったそうです。母の後ろ姿が無意識に宮沢賢治の生き方に影響を与えたようです。

地域の方、保護者の皆様からは「子どもたちのために」と力を貸していただいています。子どもたちは、そんな身近な大人の行動を見ています。大人の背中を見ています。何度も言って聞かせるより、行動で示したことの方が、子どもの心にしっかりと刻まれることは間違いありません。みなさんの温かい行動が、山田小の子どもたちの行動へとつながっています。高学年の子どもが低学年の子どものための行動をとっているのも地域や家庭での大人のみなさんの行動がつながっている表れだと思います。子どもたちは、大人の背中を見て育っています。

地域のみなさん、保護者のみなさん、いつも子どもたちのためにありがとうございます。

これからも、山田小の子どもたちを共に育んでいきましょう。